

【NITS・弘前大学教職大学院】

## 令和5年度 充実期研修講座

組織で解決する力を伸ばす  
チーム学校を支えるスクールリーダーのために



- 青森県教育職員研修計画の研修体系に位置付けられた講座です。
- 育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的としています。
- 対象は、学校長の推薦を得た主として30代後半～40代の県内学校教員（教諭・養護教諭等）です。校種は問いません。受講を希望される方は、所属校の管理職にご相談ください。受講修了後、県教育委員会の研修履歴に記載されます。
- 教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校においてアクション・プランに取り組みます。多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（2日）を組み合わせて実施します。

## プログラムの流れ（4～11月）

- 30代後半～40代の教諭・養護教諭で校長の推薦を受けた方は、パンフレット末尾の方法で申込フォームに必要事項を記入して送信してください。連続する2年まで受講可能です。
- 4月に受講者を決定して受講決定通知書をお送りし、オンデマンド動画でガイダンスと講義を配信します。
- ガイダンスで指示された組織分析と人材育成のワークに各自取り組んだ上で、5～6月にオンライン協議を行います。これらを通して、俯瞰して学校現場を見る視点を養いつつ、それぞれの勤務校をよりよくしていくためのアクション・プランを考えしていきます。
- 7月27日の第1回集合研修では、最新の教育事情に関する講義を受けるとともに、それぞれが考えたアクション・プランの案を紹介し合い、実際に進める上での課題や考えられる工夫について、教職大学院の教員も加わったグループで協議していきます。
- 8月には、希望参加のオンラインの実践事例コンサルテーションが、3回程度開催されます（まったく参加しないことも、すべて参加することも可能です）。昨年度の実践事例が実施したアクション・プランについて話を聞き、その上で、各自の進めるアクション・プランのヒントになるような協議を行います。
- 9～10月は、複数日程で設定されているオンラインのコンサルテーションに、受講者が都合のよい日時を選択して参加します。1回は必ず参加、希望する方は2回まで参加できます。それぞれのアクション・プランの進捗状況を確認しながら、教職大学院教員が助言を行います。
- 11月28日（火）の第2回集合研修では、それらのアクション・プランの実践報告を行うとともに、組織の中核を担う世代に求められるものについて協議していきます。

## アクション・プランの実践事例

令和4年度のアクション・プラン実践事例から4つを紹介します。

- 教師のICT活用指導力の向上と多忙化解消の両方を視野に入れ、校内の研究授業の改善を試みたアクション・プラン。従来は6学年全てで実施していた提案授業を低・中・高でブロック化し、2学年で1つの提案授業することにより、年間3時間の研修時間を捻出し、そこにICTを活用した授業実践の発表と演習を組み入れ、校内で共有することとした。（青森市立造道小学校・吉浦純先生）
- 多くの先生方の取組を「研修だより」で紹介したり、その作成に携わってもらったりすることで、情報共有が図られ校内研修の輪が広がるとともに、職員会議ごとにそれを使ったミニ研修会を行うことで、研修への意欲を高めるというアクション・プラン。さらに見せ合い授業、道徳推進教師による勉強会、生徒の学習アンケートによる授業改善等も実施し、それぞれのアクション・プランにより大きな成果が得られている。（青森市立南中学校・三上智右先生）
- ICTを積極的に活用している8人の先生方の授業の様子を撮影し、動画ファイル化したものを校内の共有フォルダに格納し、他の先生にもオンデマンドで視聴してもらうアクション・プラン。「どのように活用しているか、活用によるメリットは何か」をコメント化したことにより、短時間で効果的に活用できる工夫を試みた。（青森県立弘前中央高等学校・細田瑛介先生）
- 勤務校の取組についてWebサイトを使って情報発信することで、特別支援教育に関する地域への理解啓発を図り、共生社会の形成に向けた第一歩としてのアクション・プラン。他校のサイトの投稿内容や頻度を調査するとともに、校内の動きを確認し、組織的な情報発信につなげるための働きかけを進めることにより、教職員が積極的に投稿しようとする機運が高まり、更新頻度や内容の幅の拡大、保護者をはじめとする外部閲覧数の増加につながった。（青森県立青森若葉養護学校・千葉陽子先生）





## 令和4年度受講者の声

これまでは言われたこと、命じられたことをこなすというのがほとんどだったので、ミドルリーダーとして学校の課題解決に主体的に取り組むというのは本当に良い経験になった。ある問題に対して原因や改善方法を考えるようになったし、自分で働きかけるようになった。大きな変化だと思う。(高校)

4月の職員会議でアクション・プランを先生方に説明し、全体でゴールのイメージを共有して実際に実行しました。はじめは先生方が動いてくれるかどうか不安でしたが、動き出すと段々と研修の輪が広がっていき、目に見えて雰囲気が変わってきました。この研修を通して、「ミドルリーダーとして実際に組織を動かせるのだ」という経験をしました。(中学校)

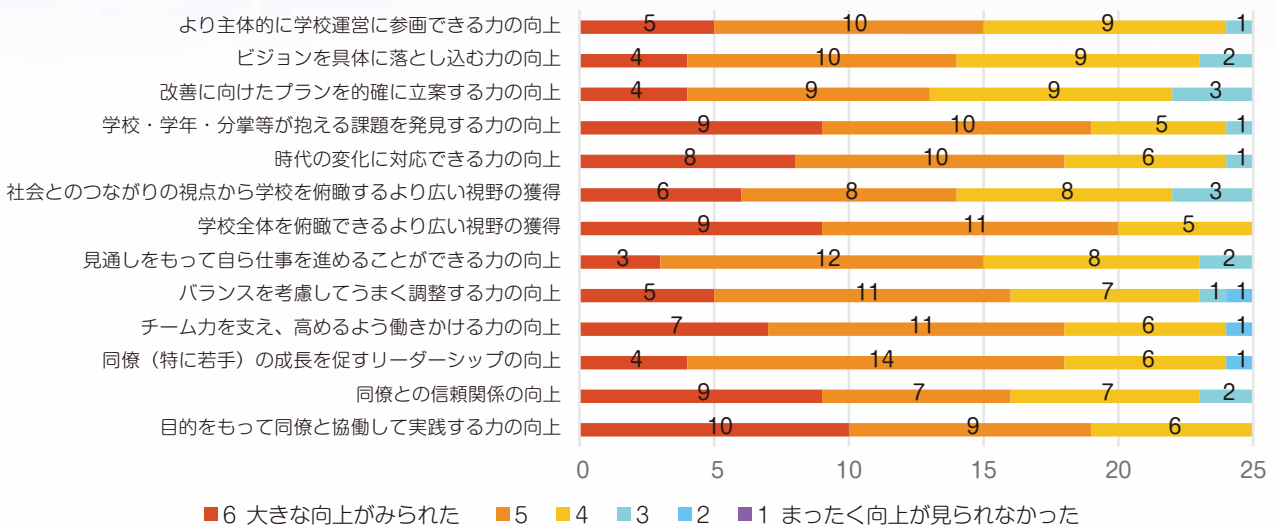
研修を通し、本校の課題をより俯瞰的にとらえることができるようになり、その原因を分析したアプローチをしたり、同僚に援助を求めたりできることが増えたと感じています。普段から意識してコミュニケーションをとることで、「学校チーム」のハブとして、ベテランと若手をつなぐ役割を果たしていきたいと思います。(特別支援学校)

この研修をスタートした春の自分は、学校での自分の立場「研修主任」としての役目を果たすだけでは足りない、学校を支えるリーダーとして組織を動かすところまでいかなければいけない、でも、自信がない、という気持ちでした。この研修で、講義・コンサルをしてくださった弘前大学の先生方、そして他校種の先生方と話すことで、とにかくやってみよう、ダメだったら修正してまたやってみようという「折れない心」が知らないうちに身に付いたかもしれません。このアクション・プランでの成果は、満足のいくものでした。これからも続けていきます。(小学校)

今回の研修でまず強く感じたのは、青森には素晴らしい大学があり、素晴らしい仲間がいるということです。協議を通して一緒に学んで、皆さんが優秀なうえに熱い思いがあることを実感し、その中で学べたことへの感謝が強いです。自分一人ではできない発想を仲間から得られたときに、午後の講義のまとめの資料にあるように、学習の基本は個人ではなくチームであるということがはっきりわかりました。そして、それを気づかせる学びを与えてくださった講師陣と仲間に感謝します。(中学校)

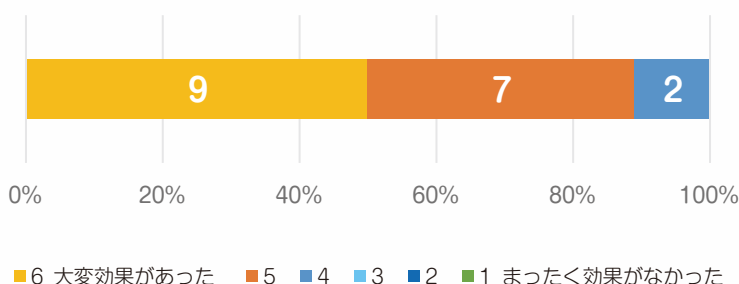
## 受講者の自己評価

充実期研修講座を通して向上した資質・能力（6段階・無記名）



## 所属校校長による評価

充実期の教員の資質向上への効果（6段階・無記名）



- 実践結果を見ていた他の学年が刺激を受けていた。学校全体にいい影響を及ぼした。
- 受講者が取り組んだ取組は、次年度から開始予定の特別支援学校におけるコミュニティスクールの基盤づくりに大いに役立った。
- 受講者や勤務校への負担が少なく、2回の集合研修の実施に十分な日数が確保されていた。
- ミドルリーダー育成の視点から言えば、自己目標の設定とうまくリンクした内容の者は、学校課題解決のための一つの道筋となるため、このような研修の在り方は適切であると思う。

## 日程及び内容

3月～4月上旬 ※NITS中央研修と同時期		受講希望者の申込(申し込み方法は下記参照)
4月中旬		受講決定通知書とオンデマンドの案内を送付
4月中旬～5月上旬		オンデマンドによるガイダンスと講義 1時間30分 ●ガイダンス ●講義「令和の日本型学校教育とLearning Compass 2030」 研修動画視聴30分+ワーク 1時間30分程度 (いずれも勤務校で各自の都合に合わせて実施)
5月11日(木) 15:00～16:00		受講生・教職大学院教員顔合わせ(オンライン)
5月	後日提示する3つの日程から選択	協議(オンライン) ●勤務校の内外環境の分析ワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイデアの共有
6月	後日提示する3つの日程から選択	協議(オンライン) ●人材が育つ学校づくりワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイデアの共有
7月27日(木) 9:30～16:00 弘前大学		第1回集合研修(対面) ●講義「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」 ●講義「子どもや家庭の背景と外部連携のために」 ●アクション・プランの発表と協議
自由参加 ※	8月 3回実施 各1時間30分	実践事例を踏まえたコンサルテーション(オンライン) 事例提供: 昨年度受講生、教職大学院修了生等
8月下旬～11月中旬		各勤務校にてアクション・プランの実践(各自)
9月～10月 複数日程から1～2回選択		教職大学院教員によるコンサルテーション(訪問又はオンライン)
11月28日(火) 9:30～16:00 弘前大学		第2回集合研修(対面) ●アクション・プランの実施報告と協議 ●協議及び講義 「ミドルリーダーとして組織を動かすときに重要なこと」 「組織の協働とリーダーシップを考える」 ●省察「研修をとおした自身の変化とこれからの5年」

※ 自由参加については、参加しないことも、複数選択することもできます。  
※ 参加無料です。集合研修の旅費は当方で負担いたしません。

## 申し込み方法

右記二次元バーコードから直接、又は教職大学院HPの充実期研修講座申込フォームにアクセスし、必要事項を入力して申し込んでください。

弘前大学教職大学院HP <https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/gs/pdotteachers.html>

画面左の「研修講座申込」から「充実期研修講座申込フォーム」へ

令和5年度  
充実期研修講座  
申込フォーム



申込期間：令和5年3月～4月上旬

主催／弘前大学教職大学院  
青森県教育委員会

支援(予定)／独立行政法人教職員支援機構  
後援(予定)／青森県小学校長会 青森県中学校長会  
青森県高等学校長協会 青森県特別支援学校校長会

お問い合わせ先

弘前大学教職大学院 教授 吉田 美穂  
TEL & FAX : 0172-39-3398 Email : m-yoshida@hirosaki-u.ac.jp